

丹羽宇一郎著「新・ニッポン開国論 - 今こそナンバーワンを目指そう - 」

日経PB社 2010年3月8日刊を読む

若い人は海外に出よ。飛び出せ

1. 社会が大きく変わろうとしている中で、組織で現場を支えている人、組織のトップを任されている人、これから企業で働こうとしている人、それぞれ何を考えているだろうか。
2. 働く目的が見えにくくなっている中で、何のために働くのか。金持ちになりたいとか、異性からもてたいとか、そういう分かりやすい目標を掲げる人は非常に少なくなっている。また、そのような目標だけでは、自分たちの精神は豊かにはならない。
3. 特に、今の若い人に伝えたい。
4. 自分の価値観をどうやって磨いていくのか。それは、異なる文化を持つ人々と出会い、価値観と価値観をぶつけ合うしかない。つまり、海外に出かけ、コミュニケーションを深めていく。そうして、世界の若者と新しい価値観を共有してほしい。
5. ところが、今の若者は外に出ようとしていないのではないか。内輪だけで議論し、騒いでいるだけでも見える。携帯電話でメールを送るだけで、会話もない。自分をさらさなければ、相手とぶつかり合うことはできない。その面倒を避けようとするから、新しい発見がないのではないか。
6. 世界全体に大きな変化が起きている。それを、若者が国境を超えて共有できなければね日本は将来孤立してしまう。世界の価値観から取り残されてしまうからだ。
7. 例えば、今後、周囲から尊敬を集めるのはどんな人物だろうか。米国の経済学者ジェフリー・サックス博士や故ロバート・ケネディ元上院議員のように、世界の貧困層や弱い人のために行動し、思いやりを見せる人物こそが尊敬を集めるだろう。金持ち以上にである。
8. 若い人たちもこの動きを認識し、日本の社会を変えていかなければならない。将来、日本が素晴らしい国であると外国から評価されるのは、カネがたくさんあるからではない。弱い人に配慮し彼らを助けているからであるべきだ。これこそ、国としての品性である。日本が海外に輸出する産物もこうした視点で作るべきだ。

- 9 . 若い人は海外に出でよ。飛び出せ - 。
- 10 . 世界の若者が何を考えているかを知り、自分たちの意見を戦わせながら、新しい価値観を作り上げてほしい。それが日本の国の将来を確固たるものにするうえで不可欠だ。自らの価値観がしっかりしていないと、周囲から何かを言われるたびにふらついてしまう。
- 11 . 人間は結局、時代の申し子である。アダム・スミス、マルクス、ケインズといった高名な経済学者ですら、その時代の風潮を受けている。
- 12 . とすると、これからの経済学の主流も大きく変わってくる。例えば、2009 年のノーベル経済学賞も、資本主義の社会の中で行政や企業などの「統治(ガバナンス)」を研究してきた 2 人の学者が受賞している。これは、従来、市場の機能を重視してきた経済学の主流が方向転換した証拠でもある。
- 13 . これからの経済学は、民主主義の透明性や情報公開、自己責任という前提に基づいて、様々な組織の統治機能をいかに発展させるかに注目が集まっており、住民全体や国民の生活を意識していくことになる。つまり、金持ちや強者の取り分が多くなるという時代が終わろうとしているわけだ。
- 14 . 経済の大きな流れが変われば、人々の価値観も動く。それに逆らおうとしても、流れに棹さすだけである。流れと同じ向きに泳ぐことが、自分の成長のスピードを引き上げることになる。だから、力いっぱい流れに乗って泳いでほしい。
- 15 . リーマンショックは、強者や金持ちの醜さを浮き彫りにした。その後、世の中は少しずつではあるが、弱いものを支援する方向に動いている。それが、米国や日本での政権交代にもつながった。
- 16 . 20 年前に社会主義が崩壊し、その後は金融資本主義が独走してきた。しかし、リーマンショックで、その限界が見えてきた。次に新しいパラダイムを作るのは、誰か。それはあらゆる分野のリーダー職にある、またリーダーになろうとする若い君たち以外にない。“激しい気迫と情熱が会社・国家の再生の根幹だ。”まさに日本の将来は第二次世界大戦後の好景気の真っ只中に生まれた世代の双肩にかかっている。

[コメント]

丹羽氏のこれからの日本を担う若者に対するメッセージ。但し、若者とは、青雲の志を持つ人のこと。年齢とは関係なし。そう思う。

- 2010 年 3 月 20 日 林明夫記 -